

奈良県立大学編

地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)

「共創郷育：「やまと」再構築プロジェクト」において奈良県立大学の果たす役割

執筆者：奈良県立大学特任准教授 増本 貴士

本学の COC/COC+推進室のホームページに記載されている通り、文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)「共創郷育：『やまと』再構築プロジェクト」」において、本学が果たす役割は大別して下記の3点（本学 COC/COC+推進室のホームページから引用する）であり、COC+事業での本学の役割の概念図を示す。

本学は、これらの事業を実施するために、地域交流センター内に COC/COC+推進室を新たに組成した。

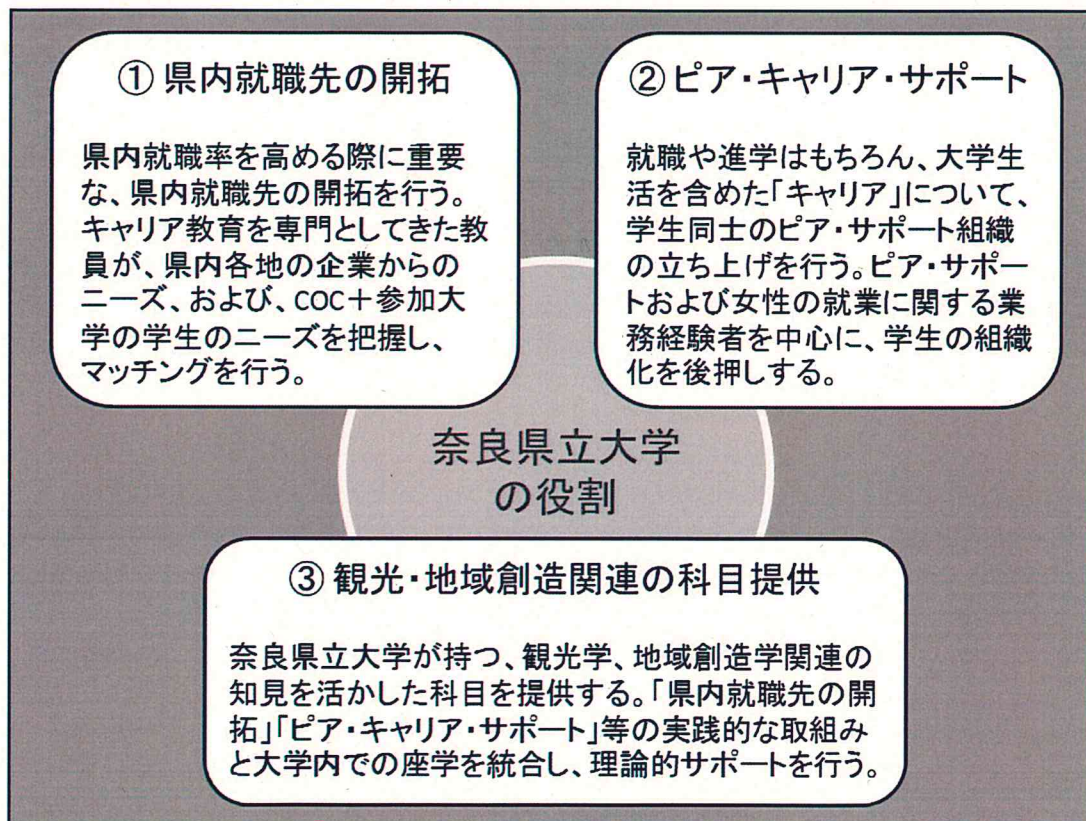


図 COC+事業での本学が果たす役割の概念図

①県内就職先の開拓

卒業生の進路の多様性を確保するため、県内の就職先を開拓するとともに、その情報を的確に届ける仕組みを構築します。その際には、企業と学生、両者のニーズをくみ取った上での適切なマッチングが重要です。本事業は、大学における教育とキャリア支援との有機的な接続によってなされる必要があり、各大学と密に連携しながら実施していく予定です。

②ピア・キャリア・サポート

学生たちにとって、先輩や同級生の持つ体験や知識は、学生生活および進路決定にあたって重要な情報源となっています。各大学の既存のキャリア・サポートとも連携しつつ、学生同士で相談し合える場を作ります。専門のスタッフが、就職や進学はもちろん、大学生活の様々な事柄を学生同士で相談し合える相互扶助システムの構築を進めます。ピア・キャリア・サポートは、①で集めた情報の実質的な伝達を担保する機能も持っています。

③観光・地域創造関連の科目提供

奈良県立大学が持つ地域創造学、観光学、情報学などの知見を活かした科目を提供します。これは、①および②等の実践的な取組みと、大学内での座学の内容を学生が有機的に連結させるための理論的なサポートの役割を果たします。

上記の3点とその説明は本学COC/COC+推進室のホームページから引用した。これらの3本柱を担当するのが本学准教授でCOC/COC+推進室長の岡本健、以上の専任教員1名、本学特任准教授の増本貴士、本学特任講師の須川まり、本学特任講師の平侑子、以上の専任教員3名である。

後述する『やまというプロジェクト』は本学のCOC+事業での教育（地方創生を担う人材育成）であり、専任教員3名が各プロジェクトを担当し、3つのプロジェクトが完了した。

教育（地方創生を担う人材育成）について ～『やまというプロジェクト』で行う PBL 型教育～

執筆者：奈良県立大学特任准教授 増本 貴士

1. 本学における COC+事業での教育（地方創生を担う人材育成）

本学は、奈良県大和郡山市に本拠を置く奈良信用金庫と連携して『やまというプロジェクト』に取り組み、その位置付けを COC+事業での教育の「地方創生を担う人材育成」とした。これには、担当教員（増本、須川、平）がゼミを持っておらず、本学での“授業”を担当していないことがあった。そのため、学生の自主的な学びを支援し、かつ、地域の連携や活性化もできることから、やまというプロジェクトを担当することで「地方創生を担う人材育成」に合致する教育を行った。

そもそも、『やまというプロジェクト』は、平成 23 年 10 月に本学と奈良信用金庫が締結した「地域振興についての連携協定」に基づき、学生がチームを組んで各プロジェクト主体的に取り組むことを支援するプロジェクトである。そのため、プロジェクト型学習（Project-Based Learning）でもあり、各プロジェクトの目的達成のために課題を発見・解決するので、課題解決型学習（Problem-Based Learning）ともいえる。

今年度は、やまというプロジェクトに①砂糖傳増尾商店プロジェクト、②TV アニメ『境界の彼方』聖地巡礼プロジェクト、③奈良市ガイドブック制作プロジェクト、④奈良市観光調査プロジェクト——の 4 つのプロジェクトで取り組み、①③④のプロジェクトが今年度で完了した。各プロジェクトの具体的な内容は後述する。

なお、昨年度までは「奈良市観光振興プロジェクト」や「なら観光シンポジウム」等を共同で取り組み、本学の地域創造学部と関連の深い“観光”について、地元奈良の持つ価値の再確認や奈良のブランドの再確立を行ってきた。

2. やまというプロジェクトの時系列的整理

平成 28 年 4 月 21 日に、本学 COC/COC+推進室長の岡本健准教授より、やまというプロジェクトについてのブリーフィングが担当教員 3 名にあった。さらに、今年度の第 1 回やまというプロジェクト会議において、これまで通り、奈良信用金庫のやまというプロジェクト担当者で地域創生室の平山豊氏と日本総合研究所リサーチ・コンサルティング部門マネジャーの山本大介氏と一緒にやまというプロジェクトを推進することとなった。この中で、前述の 4 つのプロジェクトが正式に始動し、各チームの取り組みの内容等を随時、担当教員に相談して進めるとなった。

全体的な進捗の報告では、4 月 21 日のような会議をして情報共有や担当教員以外の方からのアドバイスも必要であるため、平山氏、山本氏、本学の伊藤忠通学長に参加頂き、2 か月に 1 回開催を目途とする「やまというプロジェクト会議」が発足した。今年度の開催日は

6月15日、8月8日、9月27日、11月8日、12月19日、1月19日（平成29年）で、計6回開催された。



写真1 やまというプロジェクト会議の様子

奈良信用金庫が地元のケーブルテレビ局 KCN（近鉄ケーブルネットワーク）に放送枠を持っていることから、8月2日と11月22日に砂糖傳増尾商店プロジェクトを採り上げた特集番組が放送された。8月2日放送分は6月30日に打ち合わせを行い、7月13日に撮影を行った。11月22日放送分は10月31日に打ち合わせを行い、11月10日に撮影を行った。さらに、奈良信用金庫が12月14日に開催した「第10回なら観光シンポジウム」で奈良市観光調査プロジェクトの中間報告をそのプロジェクトメンバーがする機会を得た。

最終的なやまというプロジェクトの成果報告は、本学で平成29年2月11日に「産学連携『やまというプロジェクト』成果報告シンポジウム」を開催し、完了した3つのプロジェクトの成果報告と学生パネルディスカッションで行った。



写真2 産学連携『やまというプロジェクト』成果報告シンポジウムの様子

3. PBLでCOC+事業での教育（地方創生を担う人材育成）を行う狙い

地方創生を担う人材を育成するには、最低限のこととして、①地方や地域のことを知る、②学んだことを活かして正解のないことにチャレンジする、③チームを組んで皆で最後までやり遂げる——の3点が非常に重要となる。

この3点について、指導する教員は、地元根差したPBLで教育することで「“地方や地域のことを知る”ことで“現状を認識”し、これまで“学んできたことを活用”しつつ“正解のないことにチャレンジ”し、“チームで最後までやり遂げる”」という社会人に求められる基礎力を学生達に身に付けてもらえと考える。すなわち、学生の内からこれらのことを育成・涵養すれば、一般的な社会人として日本の現代社会で羽ばたくことができる。さらに、地方や地域という大学を中心とした学びの場で得た知識や人的ネットワークは、その地方や地域に貢献できる人材になることができる。

一方で、学生達は課題の解決策を考え・実行する際、自分の考えを論理的かつ分かり易く相手に伝える文章にして書くことで、自分の意見・知識を定着させることができる。また、訪問先企業の担当者の話をメモしながら丁寧に聴き、相槌や質問等で話を引き出すことで傾聴力を養える。さらに、街頭調査で外国人に話しかける際に必要な語学力や踏み出す力も養える。そして、チームでプレゼンテーションを行う際や発表資料を作成する際には、チームワークやリーダーシップ、意思疎通、調整力を育成し、かつ、大学生として相応しい新たな知識の獲得もできる。

これらの狙いで、PBLでCOC+事業での教育を行った。

平成 28 年度の教育（地方創生を担う人材育成）について
～砂糖傳増尾商店プロジェクト～

執筆者：奈良県立大学特任准教授 増本貴士

1. 株式会社砂糖傳増尾商店と本学学生の共同プロジェクト

5 月 20 日、株式会社砂糖傳増尾商店紀寺支店にて、本学学生 2 名が「砂糖傳増尾商店様との共同プロジェクト草案」のプレゼンテーションを行い、ご担当者の評価を頂いた。今後、共同プロジェクトに積極的かつ迅速に取り組み、成功するように推進することで一致した。

増尾商店は、安政元年（1854 年）より甘味を取扱う奈良の伝統的老舗で、学生 2 名によるプレゼンテーションは、“状況分析”、“新商品の顧客のターゲティング”、“新商品のコンセプト設定”等、大学の授業で学んだことを活用したものであった。学生達の提案は担当の方々に「ぜひ、この提案で取り組みを進めたい。若い女子学生さんの考えや感性で、新商品の開発に取り組みたい」と評価され、提案内容を増尾商店の協力のもと、共同プロジェクトの実現、成功を目指して取り組むこととなった。

特に、女性スタッフと「若い女性が喜ぶ商品」「女性ならではの商品」をコンセプトに、“自然かつ有機で高品質な商品”の企画会議を開催する準備を進め、増尾商店の商品「こんふえいとう」の組み合わせ商品（奈良こんふえいとうセット）、アイシングクッキーを販売することになった。各商品は“奈良らしさ”、“季節感を意識”、“可愛いデザイン”、“幅広い年齢層に合わせた味”、“味の組み合わせ”を意識した。

奈良こんふえいとセットでは、包材の選定、包材メーカーとの交渉、セット内容（味）の検討、販売期間・価格の確定等を女性スタッフと打ち合わせた。販売価格は 648 円（税込）で、「黒糖/煎茶/もみじ」「ブルーベリー/梅/もみじ」「米飴/ほうじ茶/もみじ」をそれぞれセットにして販売した。



写真 1 奈良こんふえいとセット

アイシングクッキーでは、デザインの考案・選定、セット内容の検討、販売期間や価格の確定、包材の確定と発注、外注先の決定と依頼等を女性スタッフと打ち合わせた。販売価格は918円（税込）で、アイシングクッキー1枚、マドレーヌ1個、ごまサブレ2枚をセットとして販売した。なお、アイシングクッキー、マドレーヌ、ごまサブレの製造は奈良市のパティスリー・ママロール社が行った。



写真2 アイシングクッキー詰め合わせ



写真3 アイシングクッキーのセット内容

下記に、おおまかな実施スケジュールを示す。

4月12日：砂糖増尾商店様との初めての打ち合わせ

5月20日：本プロジェクトについてのプレゼンテーション

6月～7月：1週間に1回程度、紀寺支店にて打ち合わせや店舗販売の準備
やまといろプロジェクト会議に出席し、進捗状況を報告

8月～9月8日：アイシングクッキー、“奈良こんふえいと”の詰め作業

9月9日～10月16日：販売期間、学生は土日祝を中心に本店にて店頭販売を行う

学生達は販売促進活動を行い、KCNのTV取材（7月13日、11月10日）、本学オープンキャンパスでの告知（8月6日）、TwitterやInstagramによる情報発信（8月～）を行った。

株式会社砂糖傳増尾商店様×奈良県立大学

商品開発プロジェクト



◆プロジェクトの目的

産学連携で、奈良市の女性を主なターゲットとして砂糖傳増尾商店様の商品の販売促進を行うことを目的に活動しています。

◆プロジェクト概要

砂糖傳増尾商店様で9月に売り出す新商品として、奈良県立大学の学生2人が、アイシングクッキーのデザインの考案、並びに人気商品である“奈良こんふえいと”のセット販売、宣伝方法の企画をしています。

◆販売期間

平成28年9月9日～10月中旬までを予定

◆アイシングクッキーのデザイン(製作:ママロール様)

鹿柄

ハロウィン猫柄

大仏柄



◆これまでの取り組み

6月以降、週に1回砂糖傳増尾商店紀寺支店様に赴き、打ち合わせを行っています。
デザインに関する話し合いだけでなく、パッケージの選定、“奈良こんふえいと”の味の組み合わせ等の話し合いにも参加させていただいています！



◆今後の取り組み

- ・SNS(Twitter, Instagram)等での広報
- ・アイシングクッキーと“奈良こんふえいと”の袋詰め作業の手伝い
- ・商品を店頭に並べる際のレイアウトの考案やPOPの作成
- ・発売後は、週に2回ほど店頭販売に立ち合わせていただく予定です！

写真4 オープンキャンパスでのポスター

販売期間終了後、増尾商店から「2 商品とも利益がきちんと出ていた」との連絡があり、“赤字を出さない”という最低限の目標はクリアできた。学生達は販売終了後に振り返りを行い、下記の4点を問題点として列挙し、その解決を模索した。

- ①他の商品の売上は、コラボ商品の販売期間中と期間外とで大きな差はなかった
→普段販売している商品＋コラボ商品 で販売する
- ②アイシングクッキーや奈良こんふえいとセットのデザインは好評だった
→しかし、購買にはつながりにくかったので、原価や販売価格等を見直す
- ③アイシングクッキーのセットの購買層は主に年配の方であった
→プレゼント用に購入？若い層には価格が高すぎた？
- ④奈良こんふえいとセットに関して、「味は選べないのか」という声があった
→店内で試食して好みを見つけることができるので、安さだけでなく気に入った味
を選べる自由度も必要と考える

また、大きな課題設定もあり、その解決方法を模索した。

- ⑤目的(若年層の顧客獲得)に合わせた広報活動と価格設定
→SNS において商品をピックアップしすぎたので、店舗そのものの紹介をすること
で知名度を上げるなど、方法を考えるべき
→価格(特にアイシングクッキー)が若年層にとっては高すぎたので、セットではなく
単品にして単価を下げるなどすれば手に取りやすいのではないか
- ⑥売り場に合った商品の提案
→アイシングクッキーのセットは、年配の方が多いのであれば、プレゼント用として
オススメする
→奈良こんふえいとセットは、好みの味を選べるようにする

平成 29 年 2 月 11 日に開催した「産学連携『やまといろプロジェクト』成果報告シンポジウム」では、砂糖傳増尾商店プロジェクトも今年度終了ということで成果報告を行った。



写真 5 学生の報告の様子

2. 砂糖傳増尾商店プロジェクトの目的とその評価

砂糖傳増尾商店プロジェクトは、奈良県下の企業様と連携することで、学生が企業や業種・職種を知り、かつ、学生の「主体性」「実行力」「課題発見力」「課題解決力」等の社会で必要とされる力を育成・涵養することを目的としている。やまといろプロジェクト内のひとつのプロジェクトであるので、奈良信用金庫の平山豊氏から講評を頂き、「このプロジェクトで学んだことは社会人になってからも大いに役立つものであり、社会から求められる力が身に付いているので、自信を持って今後の人生を歩んで欲しい」との評価を得た。

奈良市ガイドブック制作プロジェクト活動報告 ー平成 28 年度やまというプロジェクトー

執筆者：奈良県立大学特任講師 須川 まり

I. 本プロジェクト概要

学生主体で、奈良市の魅力を伝えるためのガイドブックを企画・制作・配布まで実施した。平成 26-27 年度には、冊子「やまという」を年度ごとに 3 種類制作されたが、平成 28 年度は、新たにテーマを設定し、1 冊の折り込み形式のマップ付きガイドブックを完成させた。以下、活動内容をまとめている。

II. 参加メンバー

奈良県立大学 2 年次生 3 名、3 年次生 1 名

III. 制作物

A5 サイズの冊子 (38 ページ)、B4 サイズのマップ (折り込み形式)

IV. 活動スケジュール

5 月下旬～ ガイドブック全体のテーマ設定のための会議を数回実施。
様々なタイプのガイドブックを比較分析。

7 月～ おおよそのコンセプトが決定。
各自で特集を組み、特集のテーマに沿った取材先選定。

8 月～ 取材可能か営業・交渉。取材活動開始。
記事作成・編集作業を開始。

11 月下旬 入校・印刷

12 月～ ガイドブック完成。配布先選定。

1 月～ ガイドブック配布開始。

2 月末 コラボ企画の応募締め切り。

V. 本プロジェクトの概要～途中経過報告

(ポスター発表：8月6日奈良県立大学オープンキャンパスにて)

奈良市ガイドブック制作プロジェクト

COC/COC+推進室 特任講師 須川 まり

1. 奈良市ガイドブック制作プロジェクトの概要

本学の学生(2-3年生4人)が、様々なガイドブックを研究した上で、学生目線から奈良市の魅力を発見できるようなガイドブックを制作します。どのような情報をどのような観点から提示すべきか比較分析し、企画からデザインまでガイドブック制作の一連の作業を行います。完成したガイドブックは、学内外に配布します。

2. ガイドブックの目的とは？

奈良市ガイドブック制作プロジェクトは、若い学生の目線から、奈良市の魅力に気づくことができるようなガイドブックを目指しています。奈良市には、少し視点を変えるだけで、若者が楽しめる名所やお店がいくつも存在しますが、その存在は多くの学生にあまり知られていません。ガイドブックでは、奈良県立大学からそれほど遠くないエリア(ならまち等)を中心に、有名名所の意外な楽しみ方や穴場を紹介する予定です。参加学生は、奈良市をもっと好きになってほしいという思いで取り組んでいます。

3. ガイドブックのターゲットとは？

＜対象＞奈良市を少し知っている人。奈良市の魅力をもっと知りたい人。放課後、奈良で過ごさずにすぐに他府県に帰ってしまう本学の学生。

一般的なガイドブックのように、初めて奈良市を訪れる観光客を想定したものではありません。もっと奈良市を知りたい、あるいは知ってもらいたい人々に向けたものです。

4. ガイドブックのテーマ「ベタ&マニアック」

他府県から来た知人・友人に対して、奈良市の有名名所を楽しく案内するための「ベタ」編と、それぞれのマニアックなテーマに沿って奈良市を楽しむ「マニアック」編という、2つの要素を融合させたガイドブックを企画中です。

★マニアック編：各自で「マニアック」編の数ページを担当し、自分自身も楽しめる「マニアックな特集」を企画しています。現在、他の学生と意見を交わしながら、企画・取材内容を深めています。
例：古墳、放課後の女子会

★ベタ編：有名名所を少し変わった角度から楽しんでもらえる情報やルートを提示する予定です。

5. 活動内容

参加学生は、様々なガイドブックを分析した上で、各自で企画書や取材方法、誌面の扱いに至るまでを企画立案し、実際に現地調査やインタビュー調査に赴きます。収集した情報をもとに、ガイドブックの編集デザイン作業に取りかかります。



写真①②③ 活動の様子
※ホワイトボードやノートに意見を書き込みながら、ディスカッション形式で進めています

図① 議事録
※レジュメ作成の練習のために、学生が会議内容を記録しています

VI. ガイドブックの内容

1. ガイドブックのタイトル

「奈良にいるなら知っときたい！ベタな奈良。マニアックな奈良。－奈良市内」

2. ガイドブックのターゲット層

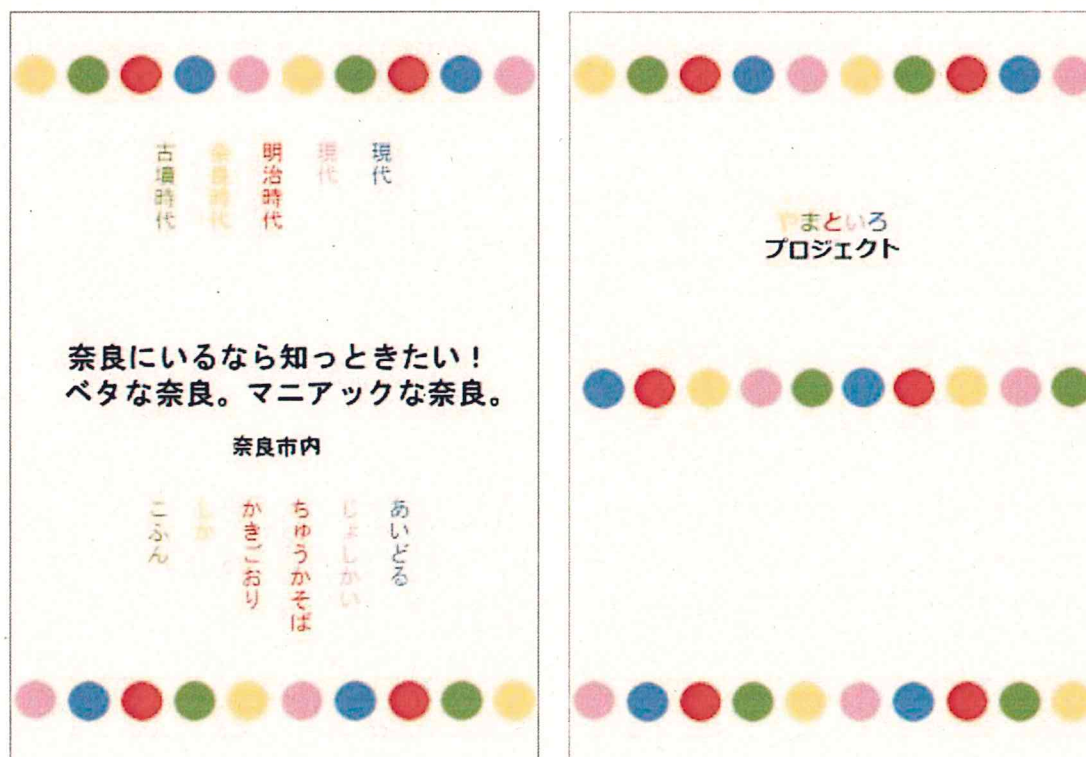
奈良を少し知っている人（奈良に通勤/通学している人、関西圏に暮らす人）

3. ガイドブックのコンセプト

ベタ企画とマニアック企画の両方を設け、奈良の魅力を様々な角度から楽しむように構成されている。

- ・ベタ企画：奈良のベタな場所をより楽しむための特集を設けている。
- ・マニアック企画：各参加学生が関心のあるテーマから奈良の魅力を探るために、5つの特集を設けている。（詳細は後述する）。

4. ガイドブックの表紙（おもて左・うら右）



5つの特集を5つのカラー（緑、黄、朱、ピンク、青）に色分けした。詳細は次ページで紹介する。

VII. ガイドブックの体裁

1. 平成 26-27 年度：店舗紹介の冊子「やまといろ」

サイズ：正方形（約 15×15cm）

種類：3 種類ずつ

※平成 26 年度：赤、青、黄 平成 27 年度：橙、緑、紫

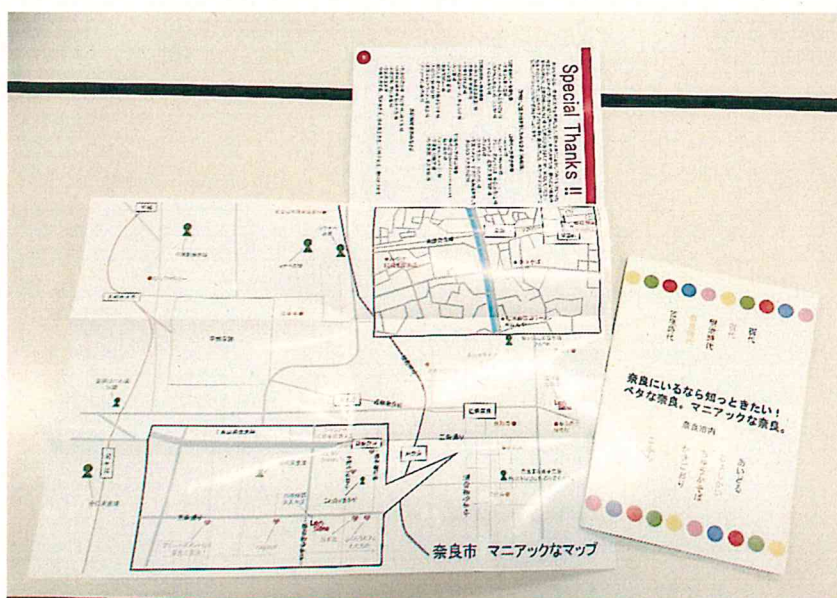


2. 平成 28 年度：ガイドブック「奈良にいるなら知っときたい！ベタな奈良。マニアックな奈良。ー奈良市内」

サイズ：本体冊子 A5 サイズ（14.8×21cm）

折り込み形式のマップ B4 サイズ（25.7×36.4cm）

種類：1 種類



VIII. ガイドブックの構成

ベタ企画（1 特集）とマニアック企画（5 特集）を 6-8 ページずつ紹介している。5 つの特集に統一感を持たせるために、各特集に該当する時代を設定し、時代の流れに沿って奈良市に関する様々なテーマを楽しめる構成にしている。

1. ベタ企画

「鹿+奈良公園」特集～奈良時代：奈良のベタなイメージである鹿と奈良市の歴史、鹿との遊び方などを紹介。

2. マニアック企画

- ①「古墳」特集～古墳時代：奈良市の古墳と古墳関連グッズを扱う店舗を紹介。
- ②「外食」特集～明治時代：明治時代に誕生した富雄地区周辺に焦点を当て、富雄がラーメン街であることからラーメン店と、そして、氷の聖地と呼ばれる奈良市の歴史を踏まえてかき氷店を紹介している。
- ③「女子会」特集～現代①：放課後や休日に女子会で利用しやすい店舗を取材し、利用者（女子大生）の目線から、奈良での遊び方を紹介。
- ④「アイドル」特集～現代②：奈良のご当地アイドル Le Siana（ルシヤナ）を通して、新たな奈良の魅力を発掘し、アイドルの目線から奈良の楽しみ方を紹介。

※右図は目次ページである。

ベタ企画とマニアック企画で区切り、時代を現代まで追っていくような流れにしている。

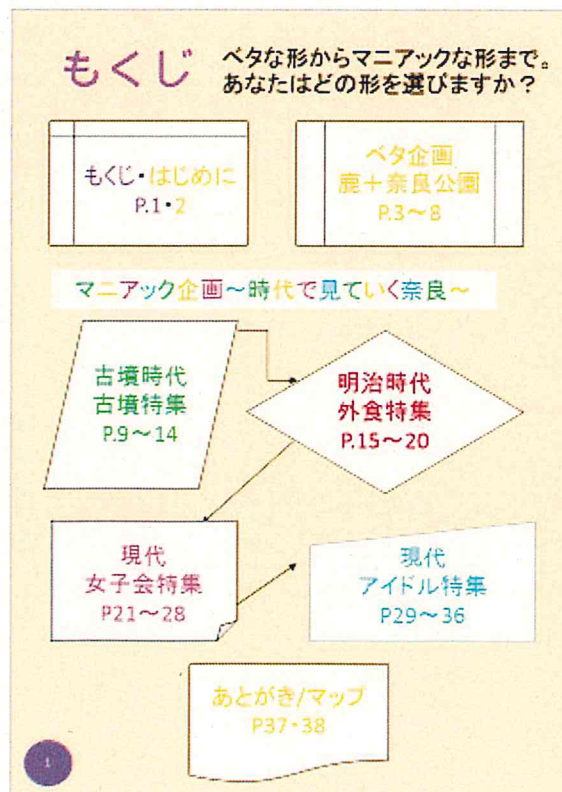
⇒ 各特集を黄、緑、赤、ピンク、青に色分けしている。

<ベタ企画>

- ・鹿+奈良公園：奈良時代、黄色

<マニアック企画>

- ・古墳：古墳時代、緑
- ・外食：明治時代、赤
- ・女子会：現代①、ピンク
- ・アイドル：現代②、青



1. 「鹿+奈良公園」特集 (3-8 ページ) : 奈良時代、テーマカラー黄色

- ・鹿の歴史（右図※半ページ）
- ・鹿との遊び方
- ・鹿の居場所と性格

2. 「古墳」特集 (9-14 ページ) : 古墳時代、テーマカラー緑

- ・古墳マップ
- ・古墳に行く前に。(右図)
- ・おすすめ!!奈良市の古墳
- ・古墳をもっと楽しむ!お店

— 116 —

3. 「外食」特集 (15-20 ページ) ～富雄のかき氷と中華そば：明治時代、テーマカラー赤

<構成>

- ・ 歴史
- ・ かき氷にまつわる行事
- ・ かき氷の店舗紹介
- ・ 中華そば激戦区 富雄 簡易 MAP
- ・ 中華そばの店舗紹介
- ・ 明治時代食事処 MAP

明治時代

～富雄のかき氷と中華そば～

歴史-history

明治時代に突入してから、西洋文化の伝来や、文明開化によって、料理店が爆発的に増加。外食文化が発達しました。料理店も和食のみならず、洋食、カレーなど様々な種類の料理店が開店しました。またこの当時、南京そば(現在の中華そば)やかき氷を取り扱う料理店が初めて登場しました。現在平貝は、天理ラーメンがあったり、「氷の聖地」と呼ばれているため、中華そば、かき氷と馴染み深い関係があります。そこでこの明治時代特集では、食べ物で中華そばとかき氷の二つに絞り、盛りだくさんの魅力をご紹介します。

今回取り上げる富雄地区は、ラーメン発祥地として有名です。一見明治時代との関連性がないように思われますが、実は明治時代と密接な関係があります。富雄地区は、もともと富雄川周辺の自然村の集まりで、明治時代に突入してから、合併・発展、富雄村(現在の富雄地区)が誕生しました。

中華そば・かき氷の登場や、富雄村の誕生の背景から、明治のページでは、富雄地区の中華そば・かき氷の魅力をご紹介します。

かき氷にまつわる行事-event

氷の聖地と呼ばれる平貝には、かき氷に関するイベントがあります。

・5月上旬 氷水祭 氷堂神社
716年、春日山の5もどり、氷の貯蔵所を造って神を祭ったことに由来する伝統的な行事です。全国の製氷販売者・氷売業者が参列し、午前11時から祭典が始まります。

また、かき氷のふるまいもあり、無料です。

・ひむろしらゆき祭 氷堂神社
「氷を氷のままに、食べてみたい」という願いを込めて、2014年から開催された新しい食文化観光イベントです。東京、名古屋、神戸、奈良のかき氷の名店が集い、様々なかき氷を楽しむことができます。当日イベントはチケット制を採用しており、お目当てのかき氷が食べたい場合は、前売/当日の購入をお願いします。

来年2017年5月6日(土)と7日(日)の2日間「第4回ひむろしらゆき祭」が開催されます。

4. 「女子会」特集 (21-8 ページ) ～奈良の女子大生の放課後：現代①、テーマカラーピンク

<構成>

- ・ 女子会マップ (右図)
- ・ 基本情報
- ・ 店舗紹介

4 ～現代①～

奈良の女子大生の放課後

マップ

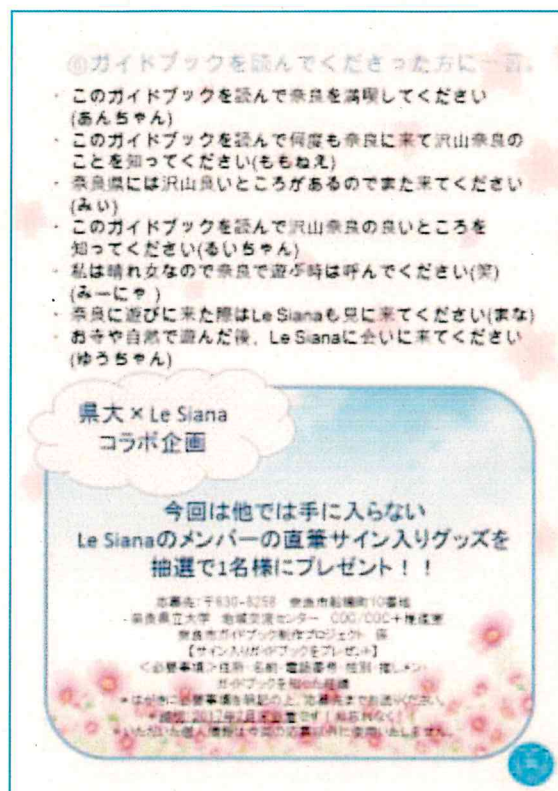
The map shows the following locations and features:

- Top Left:** 奈良県立大学 (Nara Prefectural University)
- Top Right:** 奈良女子大学 (Nara Women's University)
- Center:** 近鉄奈良駅 (Kintetsu Nara Station)
- Bottom Left:** アショーブザン+CUE 奈良三島店 (Ashobuzan+CUE Nara Sanjima Store)
- Bottom Center:** 三島通り (Sanjima-dori)
- Bottom Right:** 日本市 (Nippon-shi)
- Far Right:** ジャンカラ 近鉄奈良駅前店 (Jan-Kara Kintetsu Nara Station Front Store)
- Far Bottom Right:** フクロワカフ わたわた (Fukuro WakaFu Watatata)
- Other Labels:** やすいの道 (Yasui no Michi), 小笠原くまの通り (Ogasawara Kuma no Dori), 東田所区画 (Higashidomari-kuwa)

5. 「アイドル」特集 (29-36 ページ) ~
Le Siana に会いに行こう : 現代②、テーマカラー青

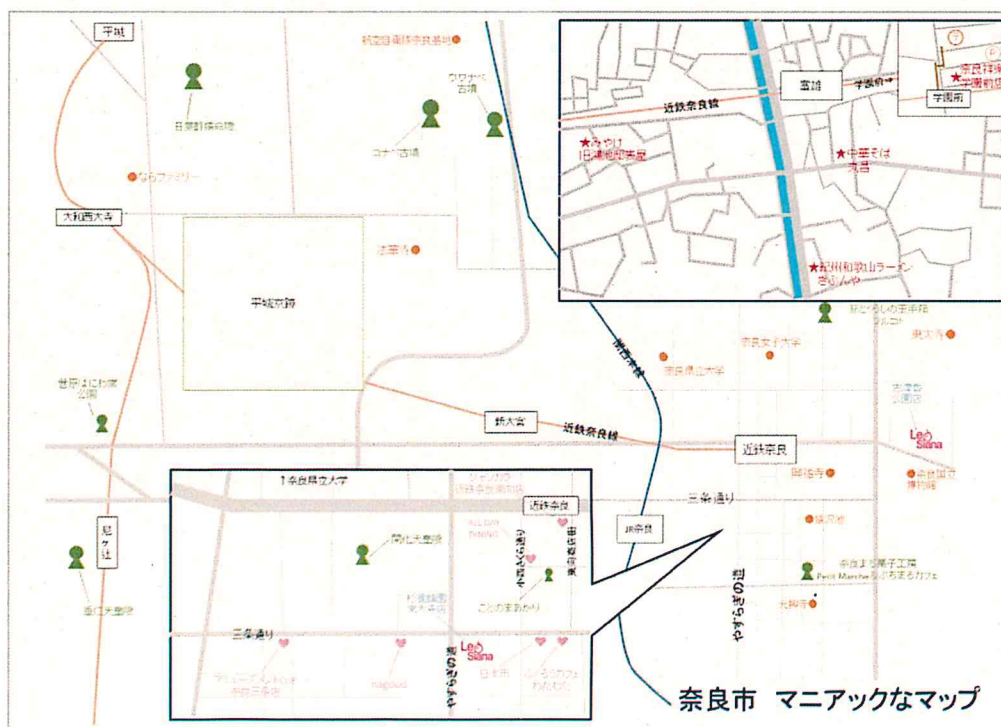
<構成>

- Le Siana のプロフィール
- Le Siana マップ
- Le Siana おすすめスポット
- Le Siana のイベントレポ
- Le Siana に教えてもらおう奈良市の魅力 (インタビュー)



6. B4 サイズのマップ (折り込み形式)

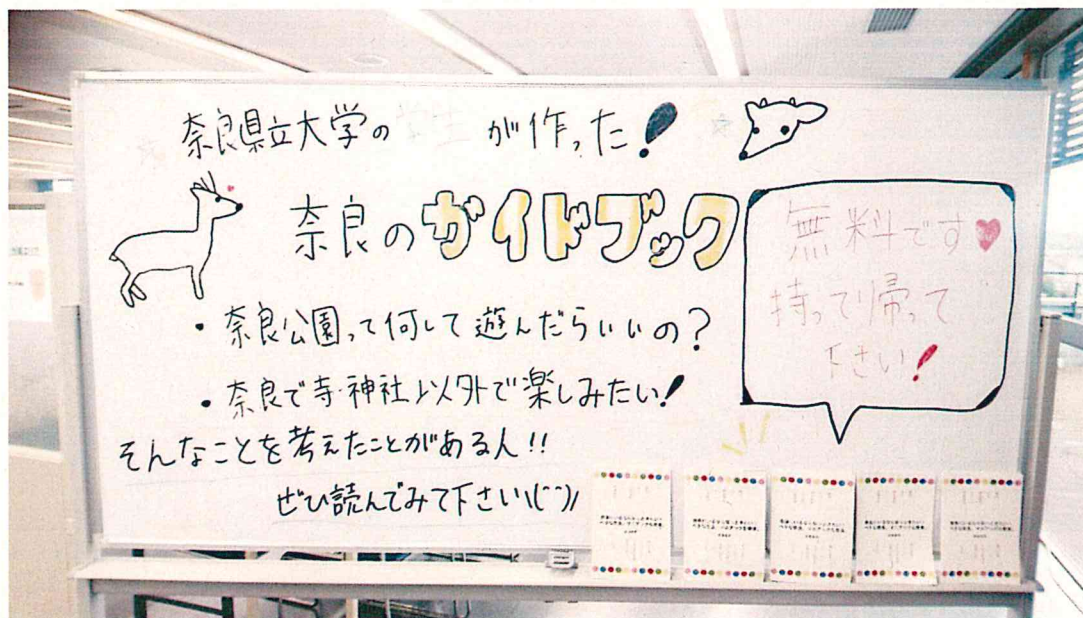
5 つの特集をマークで表示し、ガイドブック全体のオリジナルマップ「奈良市マニアックなマップ」にまとめた。



X. ガイドブック配布活動の様子

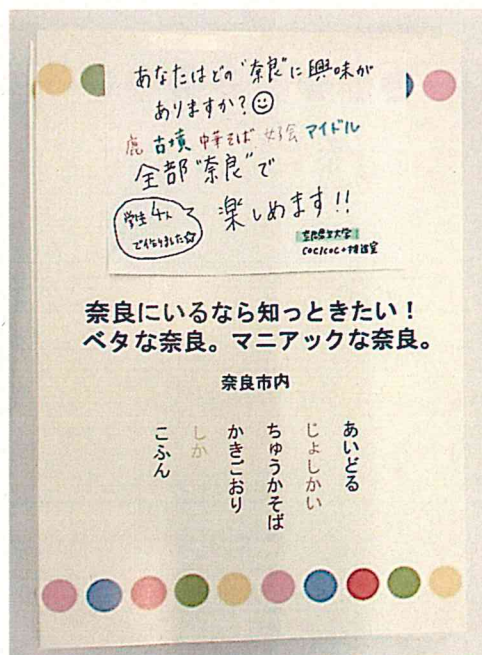
1. 主な配布場所：なら観光シンポジウム（平成 28 年 12 月 14 日開催）、産学連携『やまといろプロジェクト』成果報告シンポジウム（平成 29 年 2 月 11 日開催）、奈良県立大学、取材店舗、観光案内所（奈良市観光協会）など。

地域交流棟 3 階（耐震工事による、一時的な生協の食堂スペース※平成 28 年 10 月から 2 月末頃まで）、仮設食堂と COC/COC+推進室作業スペースとの間の仕切りを利用。



2. POP の例

配布の際に、手にとってもらいやすくするための工夫として、手書きで各配布場所に合わせて、POP を作成。



XI. 2月11日開催された、産学連携『やまといろプロジェクト』シンポジウムにて成果報告発表

- ・学生がパワーポイントを使って発表。
- ・パネルディスカッションに登壇。



写真 学生発表中の様子

奈良市観光調査プロジェクト実施報告

執筆者：奈良県立大学特任講師 平 侑子

1. 概要

本プロジェクトは、学生が自らの興味をもとに奈良市の観光に関する質問紙調査を実施し、明らかになった調査結果をもとに、政策提言をするものである。

本プロジェクトには、ポスター掲示（資料1）や専任教員による呼びかけをきっかけに、1年次生から4年次生まで計16名の学生が参加した。各々の興味を元に、5グループに分けてグループ単位での活動を行った。観光の観点から奈良に関する知見を深めるとともに、資料の作り方やグループでの取り組みの仕方、発表の仕方を学び、今後の学生・社会人生活に役立てる能力を養うことを活動の目的とした。

2. スケジュール

本プロジェクトは、平成28年7月から平成29年2月まで8ヶ月間にわたって実施された。実施の流れを表1に示す。基本的に1～2ヶ月に1回行われる奈良信用金庫との会議にて進捗状況を発表し、アドバイスを受けながら次の活動へ繋げている。

プロジェクトを開始したのは7月上旬である。参加者の顔合わせを含めたオリエンテーションを実施し、参加学生が奈良市の観光に抱いている印象や、自分が観光をする時のこだわり等を話した。その後、興味の近い者同士で5つのグループ（「土産物」「情報収集」「移動・ルート」「観光目的」「魅力・イメージ」）に分かれ、8月中旬までにグループごとに先行研究や既存のデータを収集した。各グループから1～2問ずつ質問を用意し、それを持ち寄って共通の質問紙を完成させた（資料2）。なお、下調べの段階で7月27日には、奈良市観光協会の鷲見哲男専務理事に大学内で講演（「奈良の観光の現状と課題について」）をお願いし、活発な質疑応答を行った。

調査は、8月24～26日、29～31日の計6日間実施した。9月には日本総合研究所に打ち込みと簡易集計を依頼し、10月より考察・発表準備を進めた。12月14日には、情報収集グループが「なら観光シンポジウム」にて調査結果の発表をし、翌年2月11日には「産学連携『やまといろプロジェクト』成果報告シンポジウム」にて、他の4グループが成果を発表した。

表 1. 奈良市観光調査プロジェクト実施の流れ

日時	内容
6月15日(水) 16時半～	奈良信用金庫との会議①
7月6日(水) 1限	初回顔合わせ・オリエンテーション(8名)
7月6日(水) 5限	初回顔合わせ・オリエンテーション(2名)
7月7日(木) 1限	初回顔合わせ・オリエンテーション(1名)
7月7日(木) 5限	初回顔合わせ・オリエンテーション(5名)
7月12日(火) 16時半～	奈良信用金庫との会議②
7月13日(水) 9時～	グループ分け発表・テレビ取材
7月19日(火) 2限	グループ会議(移動・ルート①)
7月19日(火) 5限	グループ会議(情報収集①)
7月20日(水) 昼休み	グループ会議(観光目的①)
7月21日(木) 4限	グループ会議(土産物①)
7月25日(火) 昼休み	グループ会議(魅力・イメージ①)
7月26日(水) 2限	グループ会議(移動・ルート②)
7月26日(水) 昼休み	グループ会議(観光目的②)
7月26日(水) 5限	グループ会議(土産物②)
7月27日(水) 1限	観光協会鷺見専務理事による講演
7月27日(木) 2限	グループ会議(情報収集②)
8月2日(火) 5限	グループ会議(土産物③)
8月4日(木) 2限	グループ会議(移動・ルート③)
8月6日(土)	オープンキャンパスにて経過報告(※資料3)
8月8日(月) 15時～	奈良信用金庫との会議③
8月10日(水) 4限	グループ会議(情報収集③)
8月22日(月) 1限	調査前説明会①
8月22日(月) 3限	調査前説明会②
8月23日(火) 3限	調査前説明会③
8月24日～26日 9時～17時	調査実施
8月29日～31日 9時～17時	調査実施
9月27日(火) 9時～	奈良信用金庫との会議④
10月17日(月) 3限	グループ会議(観光目的③)
10月18日(火) 2限	グループ会議(情報収集④)
10月19日(水) 1限	グループ会議(土産物④)
10月20日(木) 昼休み	グループ会議(魅力・イメージ②)
10月26日(水) 昼休み	グループ会議(魅力・イメージ③)

10月27日(木) 1限	グループ会議(土産物⑤)
10月27日(木) 2限	グループ会議(移動・ルート④)
10月27日(木) 5限	グループ会議(観光目的④)
11月8日(火) 16時半～	奈良信用金庫との会議⑤
11月10日(木) 2限	テレビ取材
11月22日(火) 2限	グループ会議(情報収集⑤)
11月28日(月) 3限	グループ会議(観光目的⑤)
11月29日(火) 1限	グループ会議(土産物⑥)
12月1日(木) 2限	グループ会議(移動・ルート⑤)
12月6日(火) 2限	グループ会議(情報収集⑥)
12月6日(火) 昼休み	グループ会議(魅力・イメージ④)
12月12日(月) 3限	グループ会議(観光目的⑥)
12月13日(火) 2限	グループ会議(情報収集⑦)
12月14日(水) 1限	グループ会議(土産物⑦)
12月14日(水) 昼休み	グループ会議(魅力・イメージ⑤)
12月14日(水) 13時半～	なら観光シンポジウムで発表
12月15日(水) 2限	グループ会議(移動・ルート⑥)
12月20日(火) 昼休み	グループ会議(魅力・イメージ⑥)
12月22日(木) 2限	グループ会議(移動・ルート⑦)
12月26日(月) 3限	グループ会議(観光目的⑦)
1月19日(木) 16時半～	奈良信用金庫との会議⑥
1月25日(水) 1限	グループ会議(土産物⑧)
1月26日(木) 2限	グループ会議(移動・ルート⑧)
1月31日(火) 3限	グループ会議(移動・ルート⑨)
2月2日(木) 2限	グループ会議(移動・ルート⑩)
2月2日(木) 2限～4限	グループ会議(観光目的⑧)
2月7日(火) 2限	グループ会議(観光目的⑨)
2月8日(水) 2限	グループ会議(魅力・イメージ⑦)
2月8日(水) 2限	グループ会議(観光目的⑩)
2月9日(木) 1限	グループ会議(土産物⑨)
2月11日(土) 13時～17時	産学連携「やまというプロジェクト」成果報告シンポジウムにて発表

3. 調査の様子

調査は8月24～26日、29～31日の平日6日間、各日10時～17時まで実施した。調査中はグループに関係なく、学生が各々都合の良い日時に参加した。実施場所は、JR奈良駅前の奈良市総合案内所周辺と近鉄奈良駅前の行基広場の2カ所である。

学生が自ら駅前を歩く観光客に声をかけ、回答を依頼した(写真1)。参加学生は初日は緊張している様子だったが、次第に一人で次々と外国人観光客にも声をかけるようになり、合計で500枚以上の質問紙を回収した。



写真1. 調査の様子①

4. 成果発表

5グループのうち、情報収集グループは12月14日に開催された「なら観光シンポジウム」(奈良信用金庫・奈良県立大学主催)において、観光客の情報収集におけるSNS利用の可能性について発表した(写真2)。また、土産物グループが購買意欲をそそる奈良土産に関して鹿と鹿のキャラクターについて、移動・ルートグループは奈良市を訪れる観光客の宿泊動向と奈良の滞在型観光の可能性について、観光目的グループは奈良市における体験型観光への期待と実情について、魅力・イメージグループは奈良市を訪れる観光客の食事への期待・満足度の関係について、2月11日に開催された「産学連携『やまといろプロジェクト』成果報告シンポジウム」にて発表した(写真3)。



写真2. なら観光シンポジウムでの発表



写真3. 産学連携「やまといろプロジェクト」成果報告シンポジウムでの発表

資料1：プロジェクト参加者募集ポスター

君は奈良をどれほど知っているか

奈良市観光調査プロジェクト

このプロジェクトは、奈良市観光協会へヒアリング調査をしたり、奈良を訪れる観光客に向けて質問紙調査(アンケート)をすることで、奈良の観光の実態や観光満足度を知ろうというプロジェクトです。

奈良で働く社会人や奈良を訪れる観光客など、多くの人とふれあいながら、奈良について調べてみよう。

興味がある方は、下記の連絡先へお気軽にメールをお送り下さい。

奈良信用金庫・奈良市観光協会との共同プロジェクト！



卒業研究で質問紙調査(アンケート)を実施する予定の人、アンケートに興味がある人、この機会に経験を積んでおこう！

調査のテーマ決定から集計結果の考察まで、ピア・キャリア・サポートの担当教員がしっかりレクチャーしますので、はじめの一歩として最適です。安心してご参加ください。

このプロジェクトはフィールドワークとしての参加も可能です。
一風変わったフィールドワークを体験しませんか？

COC/COC+推進室 ピア・キャリア・サポート担当		<利用時間>
<連絡先>	須川まり(すがわ・まり) sugawa@narapu.ac.jp	毎週月～金曜 9:00～17:00
	平橋子(たいら・ゆうこ) tara@narapu.ac.jp	(場所)
		地域交流センター

資料2：実際に使用したアンケート用紙2種

調査日 8/	調査員	調査場所	JR・近鉄	観光前
--------	-----	------	-------	-----

奈良市観光にお越し下さった方々へ

アンケート調査ご協力のお願い

私たちは、奈良県立大学の学生です。現在、奈良信用金庫さま・奈良市観光協会さまにご協力いただき、奈良市の観光に関するアンケート調査を実施しております。アンケートの結果は、奈良市観光の政策提案に活用させていただきます。回答時間は**5分程度**です。奈良市の観光をよりよくするため、ご協力いただきますようお願いいたします。皆様のご回答は統計的に処理をし、**個人が特定されることはございませんので、ご安心ください。**

アンケート終了後、お社のプレゼントをお渡しします。

1. あなたが奈良市に来たのは今回で何回目ですか？
() 回目
2. あなたのお住まいはどちらですか？
() 都 / 道 / 府 / 県
3. 今回の旅の同行者を選んで下さい。
(当てはまるものを全てに☑を入れて下さい。)

☐ 自分一人
☐ 家族・親族
☐ 友人
☐ 恋人・パートナー
☐ 職場の同僚
☐ ハック旅行の団体
☐ その他()

4-1. 今回の旅行日数は全体で何泊何日ですか？
() 泊 () 日

- 4-2. そのうち、奈良市にはどの程度滞在しますか？(当てはまる方に☑を入れ、数字をご記入ください。)

☐ () 泊
☐ 日帰り () 時間程度

5-1. 滞在はどの都市に泊まりましたか。
都市名 ()

5-2. 今日とはどの都市に泊まりますか。
都市名 ()

6. 奈良市を日帰りで観光される方にお聞きします。奈良市観光を日帰りとする理由は何ですか。以下からお選び下さい。(複数回答可)

☐ ホテルが見つからないから
☐ 夏どろろがないから
☐ 夜に開いてる店が少ないから
☐ 奈良市から次の目的地への移動の手段が限られてくるから
☐ 夕食は他都市で食事したいから
☐ 名産品が少ないから
☐ その他 ()

7. あなたが奈良市を訪れた目的として当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)

☐ 歴史／文化財を見る
☐ 日本の歴史／文化を学ぶ
☐ 風景や自然を見る
☐ 地域の伝統的な果物を訪れる
☐ 伝統文化を体験する
☐ 郷土料理の特産物を味わう
☐ 地元の人々と交流する
☐ 買い物をする
☐ ハイキングや登山をする
☐ 温泉に入る
☐ その他()

- 8-1. 出発前に得た奈良市の旅行情報の中で役に立ったと感じたものは何ですか。(複数回答可)

☐ SNS(Facebook, Twitter, 微信等) 問8-2, 3へ
☐ 日本政府観光局ホームページ
☐ NHKワールド(インターネット)
☐ 旅行会社ホームページ
☐ 航空会社ホームページ
☐ 宿泊施設ホームページ
☐ 地方観光協会ホームページ
☐ 宿泊予約サイト
☐ 口コミサイト
☐ 個人のブログ
☐ 動画サイト(Youtube, 土豆網等)
☐ その他インターネット
☐ 特になし

8-2. 問8-1でSNSを選んだ方にお聞きします。あなたが出発前に奈良市の旅行情報を得るために利用したSNSの中で、役に立ったと思うものを選んでください。(複数回答可)

☐ Twitter
☐ Facebook
☐ Instagram
☐ mixi
☐ Weibo(微博)
☐ Renren(人人網)
☐ Qzone
☐ KakaoStory
☐ Cyworld
☐ Naver Blog
☐ WeChat(微信)
☐ その他()

- 8-3. (問8-1でSNSを利用したと答えた方) あなたがSNSで得た奈良市の情報の中で、最も良かった情報は何か？1つだけ選んでください。

☐ 写真
☐ 観光客の具体的な体験談
☐ 観光地側の公式な情報
☐ 知人ぞ知る珍しい情報
☐ 交通アクセスの情報
☐ その他()

8-4. あなたがSNSで得た奈良市の情報の中で、最も良かった情報は何か？1つだけ選んでください。

☐ 写真
☐ 観光客の具体的な体験談
☐ 観光地側の公式な情報
☐ 知人ぞ知る珍しい情報
☐ 交通アクセスの情報
☐ その他()

調査日

調査員

調査場所

JR・近鉄

観光後

奈良市観光にお越し下さった方々へ

アンケート調査ご協力のお願い

私たちは、奈良県立大学の学生です。現在、奈良県立大学が、奈良市観光協会さまにご協力いただき、奈良市の観光に関するアンケート調査を実施しております。アンケートの結果は、奈良市観光の政策立案に活用させていただきます。アンケートの回答時間は5分程度です。奈良市の観光をよりよくするため、ご協力いただき、ありがとうございます。なお、皆様のご回答は統計的に処理をし、個人が特定されることはございませんので、ご安心ください。

アンケート終了後、お礼のプレゼントをお渡しします。

1. あなたが奈良市に来たのは今回で何回目ですか？

() 回目

2. あなたのお住まいはどちらですか？

() 都 / 道 / 府 / 県

3. 今回の旅の同行者を選んで下さい。

(当てはまるもの全てに☐を入れて下さい。)

☐ 自分一人
☐ 家族・親族
☐ 友人
☐ 恋人・パートナー
☐ 職場の同僚
☐ バック旅行の団体
☐ その他()

4-1. 今回の旅行日数は全体で何泊何日ですか？

() 泊 () 日

9-1. 「奈良市」と聞いたときにイメージするものを選んでください。(複数回答可)

☐ 鹿
☐ 奈良絵
☐ 奈良漬
☐ 社寺仏閣
☐ 古墳
☐ まんとくん
☐ 葛
☐ その他()
☐ 特になし

9-2. 今回の旅行で何がデザインされている土産品を購入したいと思いますか？(複数回答可)

☐ 鹿
☐ 奈良絵
☐ 奈良漬
☐ 阿修羅像
☐ 社寺仏閣
☐ 古墳
☐ まんとくん
☐ 葛
☐ その他()
☐ 特にこだわらない

10-1. 奈良市観光において、以下の要素についてあなたはどの程度期待していますか？各項目、あなたの期待の強さとして当てはまる数字に○を付けて下さい。

歴史的建造物・社寺仏閣	非常に強い	やや強い	やや弱い	非常に弱い
博物館・美術館	4	3	2	1
奈良公園の鹿	4	3	2	1
食事	4	3	2	1
登山・ハイキング	4	3	2	1
イベント・行事	4	3	2	1
交通網	4	3	2	1
独特の町並み・雰囲気	4	3	2	1
奈良らしい体験・記憶に残る経験	4	3	2	1
バリアフリー環境の整備度	4	3	2	1

10-2. 問10-1の選択肢にはないもので、他にあなたが奈良観光に期待しているものをお答え下さい。

◎以下、あなたご自身についてお尋ねします。◎

I. あなたの年齢を教えてください。

II. あなたの性別を教えてください。

(当てはまるものに☐を入れて下さい。)

☐ 10代
☐ 20代
☐ 30代
☐ 40代
☐ 50代
☐ 60代
☐ 70代
☐ 80代以上

☐ 男性
☐ 女性

ご協力、ありがとうございました。

10-1. 今回の旅行で購入した土産品の中で、気に入ったものを1つ教えて下さい。購入しなかった場合は選択肢「買わなかった」に☐を入れてください。

記入例) クッキー、キーホルダー、タオル等

土産品 () → 問9-2, 3へ

☐ 買わなかった

10-2. 問10-1で答えた土産品には、イラストや写真などで下記のもの描かれていましたか？当てはまるものすべてにチェックしてください。

a. 大仏 ☐ 大仏の葉書 ☐

b. 奈良漬 ☐ 柿の葉書 ☐

c. 社寺仏閣 ☐ 阿修羅像 ☐

d. 古墳 ☐ せんどんくん ☐

e. 葛 ☐ まんどんくん ☐

f. その他() ☐ しからん ☐

特になし ☐ 大和茶 ☐

11-1. 下記のうち、今回の奈良観光で満足したことを、不満に思ったことは何ですか？(それぞれ複数回答可)

a. 歴史的建造物・社寺仏閣 ☐

b. 博物館・美術館 ☐

c. 奈良公園の鹿 ☐

d. 食事 ☐

e. 登山・ハイキング ☐

f. イベント () ☐

g. 交通網 ☐

h. 独特の町並み・雰囲気 ☐

i. 奈良らしい体験・記憶に残る経験 ☐

j. バリアフリー環境の整備度 ☐

k. その他 () ☐

1. 具体的に: () ☐

2. 特になし () ☐

3. 満足した点 () ☐

4. 不満だった点 () ☐

11-2. 奈良での観光について、観光を始める前にとどの程度期待されていましたか、また観光を終えた今どの程度満足されていますか。問11-1の内容を全体的に考慮し、4段階評価でお答えください。

期待: 非常に強い 4 3 2 1

満足度: 非常に強い 4 3 2 1

12. 今回の奈良観光で印象に残ったエピソードや不満な点等がありましたら、下記にご自由にご記入ください。

◎以下、あなたご自身についてお尋ねします。◎

Ⅰ. あなたの年齢を教えてください。(当てはまるものに☐を入れて下さい。)

☐ 10代 ☐ 20代 ☐ 30代 ☐ 40代 ☐ 50代 ☐ 60代 ☐ 70代 ☐ 80代以上

Ⅱ. あなたの性別を教えてください。(当てはまる方に☐を入れて下さい。)

☐ 男性 ☐ 女性

ご協力、ありがとうございます。

4-2. そのうち、奈良市にはどの程度滞在しますか？当てはまる方に☐を入れ、数字をご記入ください。(複数回答可)

☐ () 泊 () 時間程度

☐ 日帰り () 時間程度

5-1. 滞在はどの都市に泊まりましたか。

都市名 ()

5-2. 今旦はどの都市に泊まりましたか。

都市名 ()

6. 奈良市を日帰りで観光される方にお聞きします。奈良市観光を日帰りとする理由は何ですか。以下からお選び下さい。(複数回答可)

☐ ホテルが見つからないから

☐ 鳥どころがないから

☐ 夜に開いてる店が少ないから

☐ 奈良市から次の目的地への移動の手段が限られてくるから

☐ 夕食は他都市で食事したいから

☐ 名産品が少ないから

☐ その他 ()

7. あなたが奈良市を訪れた目的として当てはまるものをすべて選んでください。(複数回答可)

☐ 歴史／文化財を見る

☐ 日本の歴史／文化を学ぶ

☐ 風景や自然を見る

☐ 地域の伝統的な集落を訪れる

☐ 伝統文化を体験する

☐ 郷土料理の特産物を味わう

☐ 地元の人々と交流する

☐ 買い物をする

☐ ハイキングや登山をする

☐ 温泉に入る

☐ その他 ()

8. あなたは今回の旅行で、奈良市のどこを訪れましたか。(複数回答可)

☐ 東大寺

☐ 春日大社

☐ 興福寺

☐ ならまち

☐ 若草山

☐ 平城宮跡

☐ その他 ()

9-1. 出発前に得た奈良市の旅行情報の中で役に立ったと感じたものは何ですか。(複数回答可)

☐ SNS(Facebook, Twitter, 微信等) → 問9-2, 3へ

☐ 日本政府観光局ホームページ

☐ NHKワールド(インターネット)

☐ 旅行会社ホームページ

☐ 宿泊施設ホームページ

☐ 航空会社ホームページ

☐ 地方観光協会ホームページ

☐ 宿泊予約サイト

☐ 口コミサイト

☐ 個人のブログ

☐ 動画サイト(YouTube, 土豆網等)

☐ その他インターネット

☐ 特になし

9-2. 問9-1でSNSを選んだ方にお聞きします。あなたが出発前に奈良市の旅行情報を得るために利用したSNSの中で、役に立ったと思うものを選んでください。(複数回答可)

☐ Twitter

☐ Facebook

☐ Instagram

☐ mixi

☐ Weibo(微博)

☐ Renren(人人網)

☐ Qzone

☐ KakaoStory

☐ Cyworld

☐ Naver Blog

☐ WeChat(微信)

☐ その他 ()

9-3. (問9-1でSNSを利用したと答えた方) あなたがSNSで得た奈良市の情報の中で、最も悪かった情報は何か？1つだけ選んでください。

☐ 写真

☐ 観光客の具体的な体験談

☐ 観光地側の公式な情報

☐ 知る人ぞ知る珍しい情報

☐ 交通アクセスの情報

☐ その他 ()

奈良市観光調査プロジェクト

COC/COC+推進室 特任講師 平 侑子



このプロジェクトでは、学生達が自ら作成したアンケートを奈良市を訪れた観光客の方々に答えていただき、奈良市観光の新たな一面を明らかにします。奈良信用金庫さん、奈良市観光協会さんといった地元の企業・組織の方々と連携し、プロジェクトを進めています。

奈良市観光調査プロジェクトには、1年生から4年生まで16人が参加しています。参加メンバーが奈良市の観光に関するそれぞれの興味を持ち寄り、「土産物」、「移動・ルート」、「訪問目的」、「イメージ・魅力」、「情報収集」の5つのグループに分かれて設問を作成中です。8月下旬にJR奈良駅前で観光客に声をかけて回答を集め、11月には、回収したデータをもとに、奈良市の観光に関して学生目線で政策提案を行います。

これまでの取り組み



7月6・7日：初顔合わせ
└ オリエンテーションを開き、和気あいあいとした雰囲気でご自己紹介をしました。

7月12日：奈良信用金庫さんとの会議
└ グループ分けを行い、各自の興味について信用金庫のご担当者さまに発表しました。



7月13日：KCNのテレビ取材
└ KCNさんの取材を受けました。自分たちの取り組みや調査への意気込みを発表し、8月2日にテレビ放送されました。

7月中旬～下旬：資料集め&グループ会議
└ 各グループで先行研究や過去のデータを探し、どのような設問を作るか会議を重ねました。

7月27日：奈良市観光協会によるご講演
└ 奈良市観光協会の専務理事鷺見哲男様をお招きして、奈良市の観光の現状について教えて頂きました。学生達からは多くの質問が飛び交い、各自設問を作る上で非常に有意義な機会となりました。



8月8日：発表(予定)
└ 奈良信用金庫の担当者さんに各自で作った設問を発表し、コメントをいただく予定です。手直したアンケートを持って8月下旬、調査実施！

平成 28 年度の就職（企業との関わり）について
 ～県内就職先の開拓：位置付けと、企業・学生向けアンケートの準備と実施～

執筆者：奈良県立大学特任准教授 増本貴士

1. 位置付け

8月6日に本学がオープンキャンパスを行い、「県内就職先の開拓」の業務とアンケートの位置付けをポスターで発表した。

**奈良県立大学 COC/COC+推進室 の
「県内就職先の開拓」のご紹介**

COC/COC+推進室 特任准教授 増本貴士

★現在、奈良女子大学・奈良工業高等専門学校・本学(奈良県立大学)の2大学1高専で、共同の「企業様と学生達への就活に関するアンケート」を準備しています

※奈良女子大学と奈良工業高等専門学校とは、文部科学省の「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の“共創郷育:「やまと」再構築プロジェクト”(幹事大学は奈良女子大学)で連携しています

＜概要＞

卒業生の進路の多様性を確保するため、県内の就職先を開拓しその情報を的確に届ける仕組みを構築します。その際に、企業様と学生のニーズをくみ取った上で適切なマッチングが重要となります。

すなわち、「**企業が求める人材像**」と「**就職希望がある**」
 「**学生達が望む企業像**」と「**内定獲得の条件**」
 を連携して調査し、各大学や高専で独自でもしくは共同で行う教育とキャリア支援の有機的な接続によって取り組みます

＜具体的には？＞

①企業様と学生達にアンケートを実施(今年度)
 ②上記①の結果から、企業様の人事ご担当者様にインタビュー
 ③上記①の結果と、求人票や就職実績による「内定を獲得した学生」と「採用した企業」を分析し、マクロ的な情報分析を行う
 ⇒県内就職先の企業様の分析と、上記①②③のデータで、ミクロ・マクロなデータを元に開拓の準備を行います

例：アンケートで調査する必要とされる“能力”とは？

企業様のアンケート調査を依頼している 企業や卒業生のレベル、社会のリアル、就職希望を学ぶ 自分の行ったこと、思ったに照らし合わせ、果たそうとする ストレスを感じる状況・環境等に、人は創れることが出来る 卒業生の様子、自分の就職先がどうなっているか	意見や感想、バックグラウンド等の意見も理解できる チームワークを重視し、協調性を持って行動する 相手の意見を丁寧に聞く 自分の意見を分かり易く説明し、伝える チームをまとめることに努める	協調性、知識、教養を身に付けている 外国語の運用能力を英語レベルで身に付けている 専門的な知識・技能を身に付けている 基本的なIT操作、インターネットの活用が出来る プレゼンテーション、英語力・漢字力等の表現力に自信がある
仕事に対するやる気、意欲、仕事内容に対して熱心に取り組める 任せられたことは黙ってでも最後までやり遂げる 目標を立てて計画し、積極的に行動し、自主的に取り組む 自分の責任で、決められる前に自ら進んで行動する 卒業後の就職先が	新しい知識や技術の習得が得意である 基礎的な事項に基き、物事を論理的に考えようとする 決めた事や方法をやり、最後まで実行する 自分の意見をしっかりと伝える、調整力がある 問題に臨む力、問題のアイデアや方法を模索する力がある	大学時代に身に付けた「やり遂げる」等の意志で進出し、企業様と向き合える姿勢がある 社会で働くための基礎的な知識・技能を身に付けている 卒業後の就職先、職種、待遇の把握、奈良での就職

写真 オープンキャンパスでのポスター

2. 平成 28 年度に準備したアンケート

「県内就職先の開拓」には、企業と学生のニーズを調査し、その調査結果を用いてマッチングする必要がある。そのため、今年度前半にアンケート項目を作成し、同時に、どう EXCEL で数値化して分析を行うかについて準備を進めた。今年度は、企業向けアンケートしか行うことができず、学生向けは本学では来年度に行うことを予定している。

アンケートでは、各質問項目で判断・選択する回答をパーセントとその基準を簡単に説明した文を記載することで、回答者が回答しやすいようにした。すなわち、「非常に重視 (70%以上)」「やや重視 (40%以上～70%未満)」「少し重視 (10%以上～40%未満)」「どちらでもない (0%以上～10%未満)」「あまり重視せず (-10%以上～-40%未満)」「やや重視せず (-40%以上～-70%未満)」「ほとんど重視せず (-70%以上)」とし、「非常に重視」等の各程度は各項目のカッコ書きを“目安的な”重視度の数字として考えるように注意を促した。さらに「あまり重視せず」「やや重視せず」「ほとんど重視せず」は、数値の前にマイナス (－) がついており、こちらにも注意を促した。これらを読んで、当てはまる各欄に○印をつけて回答するようになっている。次ページに実物を示す。

3. アンケートの分析手法

各アンケートに記載された (○印をつけられた) ものを集計し、「非常に重視 (70%以上)」は 3 点、「やや重視 (40%以上～70%未満)」は 2 点、「少し重視 (10%以上～40%未満)」は 1 点、「どちらでもない (0%以上～10%未満)」は 0 点、「あまり重視せず (-10%以上～-40%未満)」は -1 点、「やや重視せず (-40%以上～-70%未満)」は -2 点、「ほとんど重視せず (-70%以上)」は -3 点に読み替えて、EXCEL に打ち込んで集計・処理を行う。

集計で、各項目の点数を足していけば、企業が求める人材像は「合計点数の高い項目の順位 (ベスト) で、高い順位の項目を多く持つ学生」であることが分かる。逆に、企業が求めない人材像は「合計点数の低い項目の順位 (ワースト) で、低い順位の項目を多く持ってしまった人材」であることも分かる。

アンケートでは、企業名が記載されており、企業のデータもある程度は分かることから、業種等によって求める人材像が変化するか等を回帰分析である程度チェックすることもできる。

4. 平成 29 年度に向けて

本学では平成 29 年度に学生向けアンケートを行い、企業向けアンケートとのギャップを調査・分析する予定である。

- ①下記の各アンケート項目について、右欄に伸びた「非常に重視」から「ほとんど重視せず」までに該当する枠に「○」印をお付け下さい。
 ②「非常に重視」等の各程度は、各項目のカッコ書きを“目安的な”重視度の数字としてお考えください。
 ③「あまり重視せず」「やや重視せず」「ほとんど重視せず」「ほとんど重視せず」は、数値の前にマイナス(－)がついておりますので、ご注意下さい。

アンケート項目	各アンケート項目の重視度(%)	非常に重視 (70%以上)	やや重視 (40%以上～70%未満)	少し重視 (10%以上～40%未満)	どちらでもない (0%以上～10%未満)	あまり重視せず (-10%以上～-40%未満)	やや重視せず (-40%以上～-70%未満)	ほとんど重視せず (-70%以上)
基本的なマナーや態度を身に付けている								
企業や公官庁のルール、社会のルール、約束等を守る								
自分が行ったこと、言ったことに責任を持ち、果たそうとする								
ストレスを減らせる状況・環境等に、少しは前向きなことができる								
平常心を持ち、自分の感情をコントロールできる								
仕事に対するやる気・意欲・使命感を持って働くことができる								
任されたことは最後までやり遂げる								
目標を立てて計画的・積極的・自主的に取り組む								
自分の権限下で、言われる前に自ら考えて行動する								
宗員間で競い合いたい								
意見や立場、バックグラウンド等の違いを理解できる								
チームワークを重視し、協調的に行動する								
相手の意見を丁寧に聞く								
自分の考えを分かり易く説明し伝える								
チームをまとめる、引き連れていく								
新しい課題や困難な課題にチャレンジする								
客観的な事実に基づき、物事を論理的にとらえようとする								
決まった手順や方法を守り、着実に実行する								
指針の条件をバランスよく考慮し、調整できる								
前例に縛られず、独自のアイデアや方法で問題解決できる								
幅広い知識・教養を身に付けている								
外国語の運用能力を業務レベルで身に付けている								
専門的な知識・技能を身に付けている								
基本的なPC操作、インターネットの使用ができる								
プレゼンテーション、研修の基本的な技術に付けている								

5. アンケート結果から、学生に伝えたいこと

これまでの打ち合わせから、下記の3点を学生に伝える。

- ①学生が低く評価したもの（-1、-2が多い項目で、「知識・技能」だろう）に対して、企業は現段階でも十分に高く評価しているので、過度に卑下する必要はない
- ②企業は「知識・技能」よりも、「社会規範」や「就業姿勢」を重視し、「一緒に働けるか」「社会人として通用するか」を考えている
- ③学生は「知識・技能」を学ぶために進学するが、企業が求める「社会規範」や「就業姿勢」を育てる授業はキャリア教育になる。ゆえに、PBL 型等の学生がチームで行い、企業や社会人の方と一緒にする・プレゼンする等の関わりを持って学ぶ機会があれば、「社会規範」や「就業姿勢」を涵養することになる

これらの3点は、3校のCOC+コーディネータ会議で共通の認識となっており、平成29年度の連携授業等で学生達に指導していく。

今後の取り組み

～『やまというプロジェクト』での官産学金連携「企業研究プロジェクト」～

執筆者：奈良県立大学特任准教授 増本貴士

1. 平成 29 年度に行う『やまというプロジェクト』内の「企業研究プロジェクト」

平成 29 年度（来年度）に行う『やまというプロジェクト』も、今年度と同様、奈良信用金庫と連携して、COC+事業での教育の「地方創生を担う人材育成」に取り組む。具体的には、財務省近畿財務局と奈良県下の企業の支援を得て、「企業研究プロジェクト」を立ち上げる。

「企業研究プロジェクト」は、①官産学金連携で行う、②就職活動に必須の“企業研究”の力を養成する、③理論と実践を融合させる——の 3 本柱で内容を充実させ、2～3 年次の学生をメイン（1 年次と 4 年次の学生の参加は可能）に取り組む。参加想定人数は 15 人であり、本学の地域経済コモンズを中心に学生募集を行う。

下記に、現時点での準備内容を述べる。

①官産学金連携で行う

平成 29 年 2 月 11 日に開催された「産学連携『やまというプロジェクト』成果報告シンポジウム」にて、奈良信用金庫の川井喜樹理事長が「奈良の活性化には、個別の努力だけではなく、地域として力を合わせた取り組みが重要である。そのためには、官産学金連携の強化が求められる」と開会挨拶で言及があった。さらに、近畿財務局の支援をやまというプロジェクトで受け、奈良信用金庫と関係の深い奈良県内の企業を知り、インターンシップにも行くことで、官（近畿財務局）・産（奈良県内の企業）・学（本学）・金（奈良信用金庫）が連携して COC+事業での教育の「地方創生を担う人材育成」ができる。

②就職活動に必須の“企業研究”の力を養成する

就職活動では、学生達がしなければならないことのひとつに“企業研究”があり、企業の概要や事業内容等を知ることはもちろんのこと、IR 情報（Investor Relations：投資家向けの広報）や BS（Balance Sheet：貸借対照表）等の数値情報を理解することまで求められる。さらに、学生達が学んだ知識・理論を用いて EXCEL で実際にシミュレーションすれば、学んだ知識・理論の理解度合いを自ずと知ることができ、これをカバーすることができる。幸いなことに、近畿財務局には公認会計士の資格を保有する職員が勤務し、企業研究プロジェクトで企業のデータ分析（例えば、BS からの企業の財務状況を把握する）やマネーの面から考えるライフプラン等を講義する予定なので、学生達に企業分析の仕方やライフプランを立てる・シミュレーションする力を身に付けさせることができる。

③理論と実践を融合させる

座学で学んだ知識・理論を、実際に EXCEL で実習してみることは知識・理解の確認になることは上述した。しかし、企業研究プロジェクトではこれだけでは不十分と考え、学生達が近畿財務局や大阪市内の公官庁等を見学・訪問し、かつ、夏季休暇中に奈良県下の企業にインターンシップに行くことを計画している。すなわち、これらは、知識・理論を実習だけでなく、インターンシップに活用することで、学生達の就職活動に必要な諸能力やキャリア意識の向上につながるができる。

よって、学生達は、“知識・理論”と“実習・インターンシップ”が融合することが自分自身の力になり、自己肯定感も持てる。

2. 「企業研究プロジェクト」のスケジュール案

企業研究プロジェクトは、本学のフィールドワーク科目で単位認定を受けるため、単位認定必要時間数の 22.5 時間（1.5h×15 回）を確保できるスケジュールを立案した。基本的に学生が各自自由に企画・立案・実行して申請し、自宅と大学以外で活動することが条件で、大学に外部の方が来て活動すれば学内活動として扱われ、単位認定の対象となる。

下記に、スケジュール案を示す。

	実施日時（仮）	講義内容	講師	時間
第 1 回	5/9 と 5/16 の 5・6 限	奈良県内企業の紹介 講師のご講演	観光関係企業 女性経営者	1.5 1.5
第 2 回	5/23 と 5/30 の 5・6 限	奈良県内企業の紹介 講師のご講演	奈良信用金庫自体の紹介 特産品（食品）関係企業	1.5 1.5
第 3 回	6/13 の 5 限	ライフプラン講座 PC での EXCEL 実習	近畿財務局職員 金融調整官	1.5
第 4 回	7/11 の 5・6 限	企業のデータの分析・ 収集・整理 PC での EXCEL 実習	近畿財務局職員かつ公認 会計士資格取得者 審査業務課	1.5 1.5
第 5 回	夏季休暇中 (8・9 月に 1 週間)	インターンシップ	奈良県下の企業の担当者	40
第 6 回	夏季休暇中 (9 月後半) 10 時から終日	近畿管内の経済情勢 近畿財務局・公官庁の 見学と訪問	午前：人事課、若手職員 午後：経済調査課、財務局	2 5
その他	平成 29 年 10 月以降	奈良県庁主催の就職 フェア	奈良県庁のフェアに参加	
	学外での調査活動	インターンシップの 成果報告書類、年度末 報告・発表準備		5

このように、学外の方からの授業、学外での活動（見学・訪問）、インターンシップを組み合わせることで、フィールドワーク科目 1 単位（22.5 時間）とインターンシップ 2 単位を取得できる。

平成 29 年度のピア・キャリア・サポート活動

～働くナラ・プロジェクト～

執筆者：奈良県立大学特任講師 須川 まり、平 侑子

1. 働くナラ・プロジェクト

今後は、ピア・キャリア・サポート団体を立ち上げ、そのメンバーによる「働くナラ・プロジェクト」を実施予定である。「働くナラ・プロジェクト」の活動内容は、学生が様々な業界の社会人（主に奈良で働く人）に、仕事観や地域についての思い、地域で働くことのメリット・デメリット、ワークライフ等をインタビュー調査し、小さなカードにまとめていくものを想定している。

2. 現在、以下のポスターを使って、広報中。

働くナラ・プロジェクト

もし“奈良”で働く“なら”
知りたいこと

- 奈良で働く人って、どのような生活してるの??
- なぜ、現在の会社に就職したの??
- 週末どのように過ごしているの??
- 奈良に住むメリット・デメリットは??

2017年始動!!

いろいろな業界で働く社会人にインタビューしてみませんか!
インタビュー内容をカードにして集めよう!

メンバー募集中

全学年
誰でも可!

～習得できるもの～
コミュニケーション能力、礼儀・マナー、
自分のキャリア（＝人生）についての広い視野、FWの単位

参加希望の方はこちらまで!
COC/COC+推進室
地域交流棟1階・3階作業スペース
平侑子、須川まり（特任講師）
taira@narapu.ac.jp
sugawa@narapu.ac.jp